

## 田中拉致問題担当大臣記者会見要旨

### 【拉致問題関連部分抜粋】

(平成24年10月5日(金)10:45～11:05 於)法務省19階記者会見室)

#### 1. 発言要旨

拉致問題等について、皆さん方にもできるだけ早く御家族の方とお会いしたいということをお願いしてきました。今日の夕方、拉致問題等についての懇談会を飯塚家族代表をはじめ、増元さん、横田さんともお会いできることになりました。御報告していきたいと思っております。

また、7日には川崎市平和会館において、横田夫妻が御講演される拉致の被害者家族を支援するかわさき市民の集い、ここにも参加させていただく予定であります。

さらに、8日には藤沢で同様の趣旨の会合がございますので、これにも参加をさせていただきたいと思っております。

なお、本日5日は横田めぐみさんの48回目の誕生日であります。家族を引き裂かれてから、もう既に35年も長きに渡って拉致との問題をこうして戦い続けているわけでありますので、一日も早くこれらの問題についての解決をしていきたいと思っております。

私は、やはりこの拉致問題というのは、国として、国家としてしっかりとこの問題について対応していかなければいけないと思っておりますので、その任を受けて、これからも頑張っていきたいと思っております。

以上、御報告を申し上げ、閣議、あるいはまた閣議以外のことを申し上げたわけですが、どうか皆さんに質問があれば、お受けをしたいと思っております。よろしくどうぞ。

#### 2. 質疑応答

(問) 拉致の関係でお聞きしたいのですが、先日行われた日朝協議の際に、内閣官房の拉致対策本部の局員が、松原前大臣が、外務省の協議とは別にお会いになったという報道がありますが、事実関係をお聞かせください。

(答) まず、その問題等については、詳細に引き継ぎもしておりませんし、松原さんもいろいろな努力をされて、できるだけ早く、この拉致問題の解決に努めるために、いろいろな方法でおやりになったのだと思います。私自身は、それらについて詳細に報告を受けておりません。ですから、今、私が明確に答えることはできないと、今朝の新聞で知りましたので、またこれから勉強させていただきたいと思っております。

(問) もしそのことが事実であれば、二元外交になるのではないかという指摘もありますが、その点に関してどういうふうにお考えでしょうか。窓口を一本化するべきだとか、そういうふうにお考えでしょうか。

(答) 二元外交とか、三元外交とかという指摘にはならないと思うのです。ということは、今回のように、拉致問題について、何とか解決をしたいというのが一つであります。その問題をはっきり申し上げて、一つになって努力をされてきて、あらゆるところからの情報をいただきながらやろうとしているわけでありますから、それは外務なり、あるいは拉致なりという中で、はっきり申し上げて、この二元外交というものには当たらないのではない

か、解決をするためにいろいろなことを含めて、情報を収集しないと、どれが一番解決を早くできるかという、こういう形になるのだらうと思いますから、そういう点で、松原さんも一生懸命これらについて努力をされたと思っておりますし、ぜひその辺については、二元外交とは私は指摘に当たらないのではないかなと、こう思っております。

（問）でしたら、ちょっと確認なのですが、この拉致対策本部だけに限らず、いろいろなつながりのある方がいろいろな交渉をしていくという、解決に向けて少しでも役に立つのであれば、やっていくということを大臣としては、それは良しとされるお考えでしょうか。

（答）今そのことを具体的に誰がどう動いているか、はっきり申し上げて分かりません。

ですから、全てそれがいいとか、悪いとかと言うべきものではないと思う。たまたま今回の松原前大臣含めて、一生懸命やられている人間関係も含めてやっておることですから、それは二元外交には当たらないのではないかと。

しかし、いろいろな収集の仕方、いろいろな皆さん方が多くのお付き合いなり、いろいろなことがあると思いますから、そういう点で解決のために情報をいただくということについては、私はそれなりに努力をしていかなければいけないのだらうと、こう思っております。

（問）政府としての交渉の窓口が複数にわたるという可能性についての懸念があると思うのですけれども、その点についてはいかがでしょうか。

（答）政府としての複数の窓口というのは、あり得ないことだと思います。我々がこの拉致対策のための政府として任命を受けているわけでありますから、それは私たちが、あるいは私が一生懸命努力をしていくと。そのために、いろいろな各方面の省庁でいろいろな資料なり、あるいはルートなりがあれば、それは聞かせていただいたり、いろいろなことをするのは、当たり前だと思っておりますので、そのことについては、ぜひ具体的にどこがどうだということを私は今存じ上げておりませんから、これ以上のことは差し控えさせていただきますと思います。

（以 上）